

第1回委員意見を踏まえた検討結果

評価方法に関する意見	対 応
指標を増やし、指標ごとに指標値を比較し、緊急度1位の指標の数が多い圏域を緊急性の高い圏域と評価する。	委員提案の評価方法を（案2）として提示
評価指標に関する意見	対 応
河川の正常流量に係る指標より、湧水に係る指標が必要	湧水の指標として、取水制限日数を採用
水害、土砂災害も考慮すべき	土砂災害発生件数、被災家屋棟数を指標として採用
河川整備状況は重要な指標	圏域間の比較可能な指標としては、県の河川整備率しかないため、（案1）では不採用とし、（案2）で採用
人の暮らしや産業に関する指標も必要	汚水処理人口普及率、リバーフレンドシップの協定締結数、多面的機能支払交付金活動面積、森づくり県民大作戦参加者数を指標として採用

計画の策定順

第2回審議事項

（案1）

全圏域で共通の指標を点数化し、合計点で緊急性の高さを評価する。点数は、傾向や流域の課題を考慮して減点する。

（案2）

緊急度1位の指標の数が多い圏域を緊急性が高い圏域と評価する。全圏域で共通しない指標も含む多くの指標を選定する。

いずれの案が妥当か

妥当な案の評価方法

(案1) 評価方法

【基礎】原則全圏域で共通の指標について指標値を点数化

【減点】傾向や流域の課題等を考慮して減点

【緊急性】減点後の点数を合計し、総合点が低い圏域を緊急性が高い圏域と評価する。

緊急性



【基礎】
現状



【減点】
傾向



【減点】
流域の課題等

傾向による
減点

- ・概ね10年前と現状の差から傾向を分析
- ・悪化傾向にある指標の点数を減点
- ・減点は悪化度により3段階（10～30点）

流域の課題等
による減点

- ・流域課題・施策整理表から流域の課題等を抽出
- ・流域の課題等の数により減点（1課題当たり10点）

(案1) 指標の概要

水質	表流水水質	公共用水域におけるBOD、COD環境基準の達成地点の割合
	地下水水質	塩水化していない観測井の割合
水量	湧水	直近10年間の取水制限日数
	地下水水量	地下水利用量に対する地下水涵養量の比
治水	土砂災害	直近10年間の土砂災害発生件数
	浸水被害	直近10年間の被災家屋棟数
自然環境	植物環境	土地利用状況を5段階に区分し植生が残っている地目の評価
	生物生息環境	レッドデータブックに掲載されている絶滅の恐れがある種の数の減少割合
暮らし	下水道等	汚水処理人口普及率
	流域の活動	地域団体の活動の増加割合 (リバーフレンドシップの協定締結数、多面的機能支払交付金活動面積、森づくり県民大作戦参加者数)

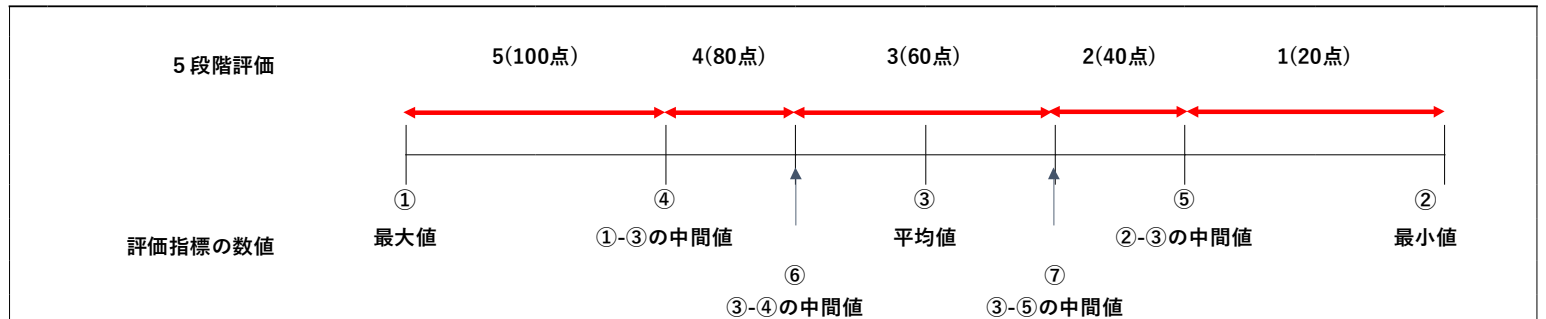
(案1) 指標の整理

注) 表中の各圏域の数値は、公表データ又は庁内各課からの提供データに基づき、事務局が算出したものである。

分類	評価項目	指標	評価値の単位	伊豆海岸	狩野川	富士川	安倍川	大井川・菊川	太田川	天竜川	浜名湖
水質	表流水水質	公共用水域におけるBOD、COD環境基準の達成地点の割合	割合	100.0%	100.0%	91.3%	93.3%	95.2%	91.7%	83.3%	85.0%
	地下水水質	塩水化していない観測井の割合	割合	-※1	100.0%	93.5%	94.9%	100.0%	82.8%	86.2%	87.5%
水量	湧水	直近10年の取水制限日数	日数	0	0	0	0	406	548	511	588
	地下水水量	地下水利用量に対する地下水涵養量の比	比率	-※1	17.71	12.23	3.11	2.83	8.47	2.61	4.53
治水	土砂災害	土砂災害発生件数	総数(平均)	10.8	6.0	2.9	13.3	14.3	7.1	5.6	6.8
	浸水被害	被災家屋棟数	総数	71	128	47	192	96	23	35	9
自然環境	植物環境	植生が残っている地目の評価	面積(加重)	93.46	80.71	77.45	82.74	82.84	64.46	86.37	60.63
	生物生息環境	レッドデータブックに記載されている絶滅の恐れがある種の減少割合	割合	算定中							
暮らし	下水道等	汚水処理人口普及率	割合	60.6%	84.6%	86.6%	93.8%	74.4%	84.2%	90.9%	89.7%
	流域の活動	リバーフレンドシップの協定締結数増加割合	割合	2.6%	45.8%	17.2%	105.3%	78.6%	53.9%	35.1%	62.5%
		多面的機能支払交付金活動面積増加割合	割合	83.4%	39.0%	0.6%	4.9%	44.6%	33.7%	181.8%	15.3%
		森づくり県民大作戦参加者数増加割合	割合	-21.6%	140.3%	107.8%	64.8%	44.4%	59.9%	-12.2%	55.1%

※1 - : 地下水量や水質に関する調査未実施。地下水について問題が発生していないため、評価においては、最も緊急性が低いものとして取扱う。

分類	水質		水量		治水		自然環境		暮らし				参考
評価項目	表流水水質	地下水水質	湧水	地下水水量	土砂災害	浸水被害	植物環境	生物生息環境	下水道等	流域の活動			
指標	公共用水域におけるBOD、COD環境基準の達成度	塩水化していない観測井の割合	取水制限日数	地下水利用量に対する地下水涵養量の比	土砂災害発生件数	被災家屋棟数	植生が残っている地目の評価	レッドデータブックに記載されている絶滅の恐れがある種の減少割合	汚水処理人口普及率	リバーフレンドシップ協定締結数増加割合(県管理河川のみ)	多面的機能支払交付金活動面積増加割合	森づくり県民大作戦参加者数増加割合	
元データの単位	mg/L	mg/L	日	千m3/年	件数	棟	km2	種	人口	件	面積	人数	
5段階評価	環境基準達成 100%	塩水化せず 100%	取水制限日数が少ない 0	地下水涵養が豊富 17.7	土砂災害が少ない 2.9	水害被害が少ない 9	植生が多く、人為的影響が少ない 93.46	絶滅の恐れがある種の減少割合が小さい 算定中	汚水処理人口普及率が高い 94%	協定締結数の増加割合が小さい 2.6%	取組面積の増加割合が小さい 0.6%	参加人数の増加割合が小さい -21.6%	低い
1	環境基準未達成 83%	塩水化懸念 83%	取水制限日数が多い 64	地下水涵養がやや豊富 2.6	土砂災害が多い 14.3	水害被害が多い 192	植生が少なく人為的影響が大きい 60.63	絶滅の恐れがある種の減少割合が大きい	汚水処理人口普及率が低い 61%	協定の締結数の増加割合が大きい 105.3%	取組面積の増加割合が大きい 181.8%	参加人数の増加割合が大きい 140.3%	高い



(案1) 指標の点数化【基礎】

評価項目	伊海 豆岸	狩野川	富士川	安倍川	大井川 川	太田川	天竜川	浜名湖
水質	100	100	60	70	90	40	20	30
水量	100	100	90	60	30	40	20	20
治水	50	60	90	20	40	80	100	90
自然環境	100	60	60	80	80	20	100	20
暮らし	50	53	77	80	43	63	83	87
計	400	373	377	310	283	243	323	247

(案1) 傾向の分析結果

評価項目	傾向の分析方法	単位	伊海 豆岸	狩野川	富士川	安倍川	大井川 川	太田川	天竜川	浜名湖
水質	【公共用水域におけるBOD,COD 環境基準の達成地点の割合】 10年前との差(R3-H24)	割合	±0	±0	-4.0%	-7.7%	+3.4%	±0	±0	+15%
	【塩水化していない観測井の割合】 10年前との差(R3-H24)	割合	±0	±0	1.3%	1.0%	2.3%	3.5%	7.6%	0.8%
水量	【取水制限日数】 直近10年間とそれ以前の10年 間との比(H25~R4/H15~H24)	日数 (倍率)	-	-	-	-	4.32	1.99	1.86	1.76
自然環境	【植生が残っている地目の評価】 10年前との差(R4-H25)	面積 (加重)	-3.22	-2.74	-3.27	-4.93	-5.05	-9.19	-1.41	-9.13

【水質】 マイナス ⇒ 悪化傾向
 【水量】 倍率が1より大きい ⇒ 悪化傾向
 【自然環境】 マイナス ⇒ 悪化傾向

(案1) 流域の課題等による減点

評価項目	伊海 豆岸	狩野川	富士川	安倍川	大井川 大菊川	太田川	天竜川	浜名湖
水質		-10	-20		-30	-20	-10	-10
水量	-10	-10	-20	-20	-20	-20	-20	-20
治水	-10	-10	-10	-10	-10	-10	-10	-10
自然環境		-10	-20					-10
暮らし	-10	-10	-10	-10	-10	-10	-10	-10
計	-30	-50	-80	-40	-70	-60	-50	-60

(案1) 緊急性の評価結果 ※減点后

評価項目	伊海 豆岸	狩野川	富士川	安倍川	大井川 大菊川	太田川	天竜川	浜名湖
基礎	400	373	377	310	283	243	323	247
補正	傾向	-20	-10	-30	-40	-40	-20	-40
	流域の課題等	-30	-50	-80	-40	-70	-50	-60
計	350	313	267	230	173	143	253	147
策定順	8	7	6	4	3	1	5	2

【点数が低い⇒緊急性が高い】

(案2) 評価方法

- ・ 指標を増やす。
- ・ 指標ごとに指標値を比較し、緊急度1位の指標の数が多い圏域を緊急性の高い圏域と評価する。

水質	共通指標	水質環境基準達成割合（公共用水域）、地下水塩水化割合
	追加	水質が良好な地点数
水量	共通指標	取水制限日数、地下水利用量に対する地下水涵養量
	追加	届出揚水設備数、河川維持流量を下回った日数
治水	共通指標	土砂災害発生件数、被災家屋棟数
	追加	県河川整備率
自然環境	共通指標	植生が残っている地目の評価、絶滅の恐れがある種数の減少割合
	追加	特定魚種の生産量の変化、代表的な湧水地点 林地開発許可面積、地域森林計画対象森林面積の変化
暮らし	共通指標	汚水処理人口普及率、地域団体の活動の増加率
	追加	無し

(案2) 指標の整理①

橙色塗: 案2で新たに追加した指標

分類	評価項目	指標	評価値の単位	伊豆海岸	狩野川	富士川	安倍川	大井川・菊川	太田川	天竜川	浜名湖
水質	表流水水質	公共用水域におけるBOD、COD環境基準の達成地点の割合	割合	100.0%	100.0%	91.3%	93.3%	95.2%	91.7%	83.3%	85.0%
		水質が良好な(BOD1.0mg/L以下)地点数	地点	6	9	5	8	7	5	4	0
	地下水水質	塩水化していない観測井の割合	割合	-	100.0%	93.5%	94.9%	100.0%	82.8%	86.2%	87.5%
水量	喝水	直近10年の取水制限日数	日数	0	0	0	0	406	548	511	588
	地下水水量	地下水利用量に対する地下水涵養量の比	比率	-	17.71	12.23	3.11	2.83	8.47	2.61	4.53
	地下水利用	届出揚水設備数	総数	-	-	1,023	772	881	328	419	232
	河川流量	河川維持流量を下回った日数	日数	-	-	0	-	39	確認中	17	-
治水	土砂災害	土砂災害発生件数	総数(平均)	10.8	6.0	2.9	13.3	14.3	7.1	5.6	6.8
	浸水被害	被災家屋棟数	総数	71	128	47	192	96	23	35	9
	河川整備	県河川整備率	割合	34.8%	85.9%	12.9%	19.4%	30.3%	39.0%	14.7%	21.0%

注) 表中の各圏域の数値は、公表データ又は庁内各課からの提供データに基づき、事務局が算出したものである。

(案2) 指標の整理②

橙色塗: 案2で新たに追加した指標

分類	評価項目	指標	評価値の単位	伊豆海岸	狩野川	富士川	安倍川	大井川・菊川	太田川	天竜川	浜名湖
自然環境	植物環境	植生が残っている地目の評価	面積(加重)	93.46	80.71	77.45	82.74	82.84	64.46	86.37	60.63
	生物生息環境	レッドデータブックに記載されている絶滅の恐れがある種の減少割合	割合	算定中							
		特定魚種生産量の減少種数(減少割合の最大値)	魚種(割合)	-	1	2	2	3(-78.9%減)	1	1	3(-95.9%減)
	湧水	代表的な湧水地点数	地点数	8	26	15	9	14	9	4	5
	開発	地域森林計画対象森林面積の変化	割合	-0.20%	-0.63%	-0.64%	-0.12%	-0.36%	-0.69%	-0.45%	-0.63%
林地開発許可面積		割合	0.39%	0.37%	0.36%	0.14%	0.12%	0.33%	0.05%	0.35%	
暮らし	下水道等	汚水処理人口普及率	割合	60.6%	84.6%	86.6%	93.8%	74.4%	84.2%	90.9%	89.7%
	流域の活動	リバーフレンドシップの協定締結数増加割合	割合	2.6%	45.8%	17.2%	105.3%	78.6%	53.9%	35.1%	62.5%
		多面的機能支払交付金活動面積増加割合	割合	83.4%	39.0%	0.6%	4.9%	44.6%	33.7%	181.8%	15.3%
		森づくり県民大作戦参加者数増加割合	割合	-21.6%	140.3%	107.8%	64.8%	44.4%	59.9%	-12.2%	55.1%

注) 表中の各圏域の数値は、公表データ又は庁内各課からの提供データに基づき、事務局が算出したものである。

(案2) 緊急性の評価結果

分類	伊豆海岸	狩野川	富士川	安倍川	大井川・菊川	太田川	天竜川	浜名湖
水質	0	0	0	0	0	1	1	1
水量	0	0	1	0	1	0	1	1
治水	0	0	1	1	1	0	0	0
自然環境	1	1	0	0	0	1	0	2
暮らし	1	1	0	1	0	0	1	0
計	2	2	2	2	2	2	3	4
策定順	3	3	3	3	3	3	2	1

【緊急度1位の指標の数が多い⇒緊急性が高い】